

わずかな心がけで世界が動く?!

職場や学校、公共施設などでよく見られる「使用済み切手回収」や「ペットボトルのキャップ回収」。一人ひとりのちょっとした心がけで意外にたまるものですね。でもこの使用済み切手やペットボトルのキャップは集めた後どうなるのか、どんな役に立っているか、ご存じの方は案外少ないようです。今回は

使用済み切手はどうなるの？



使用済み切手を回収している代表的なところに、公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会（JOCS・東京）があります。ここでは、全国から送られてきた切手を①ボランティアの手によって仕分けし②郵趣家や切手商の協力で換金③そのお金は医療従事者の海外派遣の費用として役立てています。換金率は1kg1000円前後です。

使用済み切手はJOCSのほか、全国のボランティア団体などを通じて交通遺児や緑の保全活動などにも役立てられています。

鎌倉リサイクル推進会議では・・・

リサイクル推進会議で集めた使用済み切手は社会福祉法人清和会の障害者支援施設「清和園」に持っていきます。そこで施設の利用者の機能訓練として①仕分け作業や袋詰め作業を行い②コレクターに販売③換金し、施設利用者に還元されています。また切手を利用して作品を作成したりすることもあります。



切手の仕分けの様子(清和園にて)

ささやかなことが色々な形で社会の役に立っていることがわかりました。最近では、メールの普及などで切手を使用すること自体が減少してきており、切手の回収量も激減しているようです。



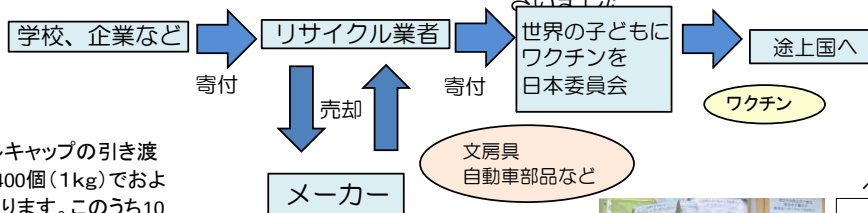
写真提供：日本キリスト教海外医療協力会

ペットボトルのキャップは？

ペットボトルのキャップの回収もあちこちで見かけます。これは、エコキャップ推進協会（横浜市）などが取り組んでいる運動で、回収されたキャップをリサイクル業者に売却。文房具やプリンターなどにリサイクルされる一方で、そのうちの一部がワクチン代としてNPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」（JCV）に寄付されるシステムになっています。

鎌倉リサイクル推進会議では・・・

事務所の前にキャップ回収のBOXが置いてあります。これをリネックス（大磯町）という環境保全企業が回収、NPO法人「Reライフスタイル」から、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に送られています。平成20年度から回収を始めましたが、これまでに回収したキャップは平成20年度192kg、21年度は574kg、22年度は706kgになりました。ご協力ありがとうございました。



ペットボトルキャップの引き渡し価格は、400個（1kg）でおよそ15円になります。このうち10円がJCVに寄付されます。

| | |
|--------------------|-----------------|
| BCG(結核) | 1人分 7円(180個) |
| DPT(百日咳・ジフテリア・破傷風) | 1人分 9円(240個) |
| ポリオ(小児まひ) | 1人分 20円(500個) |
| 麻疹(はしか) | 1人分 95円(2500個) |
| MMR(はしか・おたふくかぜ・風疹) | 1人分 114円(3040個) |



ペットボトルキャップ回収状況

